

是前騎上達部雲客等下馬、參會御休所、次下御御隨身等、次乘御前聲如始、次出御御休幕追御前如始、先是公卿殿上人騎馬前行、次再入御御休幕初、次至修學院總門下各下馬、次公卿殿上人二行列立中門北方東上、南面、次入御總門御隨身、次寄御輿於中門兼設假板鋪爲御輿寄、門內亦同設鋪御路、次下御御隨身、次入御中門白、從御後供奉、隆起朝臣御劍相從、先自御隨身進御劍隆起朝臣、次殿下以下候便所、此間之事隨時宜、次還幸、大略如御幸時、

〔修學院御幸書〕今度御幸一件、無御滯被爲濟ニ付御拜領之御品、
御裝束 黃金 關白殿へ

右御裝束ニ院御製之御短冊被爲添、御拜領物也、

どにかくにわふささるさの
へだてなく
見えけるものよ君の真心

靈元法皇御宸翰

所司代

眞御大刀
御衣

内藤紀伊守へ

右院御所より拜領也

〔見聞草三集〕修學院御幸の記

文政五年、院の御所光、御養生の爲、年中兩三度、修學院御遊歴の御幸を、關東より仰せ進せられ奏聞の處、叡感淺からざりし由、兩傳奏の書狀、并に所司代よりの書狀、五月下旬江府に到來せしと、なん中、後水尾帝、宮殿を造らせ離宮としたまふ、十境八景、おのづからありて異なる勝地な